令和６年能登半島地震における救護班第８班の活動報告

看護師長　小木曽照子

活動期間：令和６年２月 18 日（日）～2 月 21 日（木）
活動場所：石川県輪島市避難所（鳳至公民館、鳳至小学校、大屋公民館、百寿苑、
　　輪島中学校、河原田小学校）
班の構成：医師、看護師長、看護師２名、薬剤師、主事２名、大阪支部職員の計８名

【活動内容】

私たちの救護班が活動した時期は、発災から２か月半経っていたこともあり、近隣の医療機関や調剤薬局が再開し始めており、医療的ニーズは随分少なくなっているとの事前情報を得ていました。一方で、インフラはまだ復旧していない箇所も多い中、引き続きの感染症対応や、長期化する避難所生活を強いられる被災者のニーズの確認と対応を中心に活動を行っていきました。

２月 19 日、まず保健医療調整本部のある輪島市役所において、コーディネートチームと情報共有を行いました。
医療的ニーズの減少や感染症患者の受診は開業医の受診を勧めるなど、現地の方々で日常生活が完結できるよう提案があり、その内容を救護班メンバーと情報共有を行い、活動にあたりました。

午後から、鳳至公民館と鳳至小学校の巡回診療と避難所アセスメントを行いました。両避難所とも医療的な介入が必要な被災者はおられませんでしたが、管理者の方から、「こうやって日赤の方が巡回してきてもらえるだけで安心です。常駐の看護師さんがいなくなって、不安です。」というお言葉をいただき、改めて赤十字の救護班として、ニーズをアセスメントしながら医療やこころのケアを行うことの重要性を痛感しました。

２月 20 日は、鳳至小学校、大屋公民館、百寿苑の巡回診療および避難所アセスメント、輪島市から他市へ避難される二次避難者の健康チェック（医師の診察）を行いました。特に印象的だったことは、比較的大きな避難所である鳳至小学校に滞在している輪島市役所職員の疲弊感が強いことでした。他府県から自治体の職員も応援に来られていましたが、輪島市役所職員自身が被災者であるにもかかわらず支援者の役割をとらなければならず、家も崩壊したなかで避難所生活を送っておられ、心身の疲労が蓄積しておられました。疲労やお気持ちについてお尋ねしても、「大丈夫です」と返答されることが多く、プライバシーが確保されないなかで、こころのケアをいかに行うのかといった課題も明らかとなりました。市役所にあるこころのケア支援ルームの紹介や、コーディネーターチームへ現状を伝え、今後も被災者である市役所職員へのケアが継続できるよう努めました。

2 月 21 日は、輪島中学校と河原田小学校の診療巡回および避難所アセスメントを行いました。輪島中学校は、校舎と体育館、グラウンドに全天候型避難所があり、かなり大規模の避難所となっていました。

体育館では、段ボールハウスが多数ならんでおり、一見プライバシーが守られているように見えましたが、被災者にお話を伺うと、「これまで全く知らない人と 5 人で暮らしているからストレスが溜まる」と語っておられました。また、ほかの被災者からは、輪島市の文化的背景（風土や人口構成、輪島塗職人や漁師が多い土地であること等）を聞き、どのような人生を送ってこられた方が多いのかや地域の文化的背景を理解した被災者支援の在り方も検討し、次の救護班に繋いでいく必要があると改めて感じました。

また、医師や薬剤師によって、長期避難所生活により持病の高血圧症が悪化している方や、狭心症のある被災者の診療および薬剤指導を行いました。震災により定期受診ができておらず、残薬もばらつきがあり、狭心症発作時の頓服も手元にありませんでした。薬剤師が内服指導を行うと同時に、かかりつけ医の受診を提案し、屯用薬を持っていく必要性について説明することで、後日ご家族とともに受診することとなりました。

冒頭にも述べたように、私たち第 8 班の活動期間は、医療的ニーズは低下していました。幸い、活動期間中は、現地の方からは「異常気象」と言われるほど暖かい日が続いており、感染症も落ち着いている状況でした。一方で、避難所の共同生活の長期化、被災者であり支援者である職員のこころのケアが重要な時期となっていました。多くの被災者から聞かれた言葉は、「今後、どうなっていくのだろう。」でした。先行きの見えない不確かな状況への漠然とした不安、そして今後の生活への具体的懸念を吐露される方が多くいらっしゃいました。その中で私たちの救護班では、被災者に寄り添い、耳を傾け、力になることをチームの合言葉に活動を行いました。短い期間ではありましたが、少しでも被災者の皆様の力になれていたことを願うばかりです。

最後になりますが、今回の活動の機会を与えてくださった救援部の皆様、病棟業務や診療を後方支援してくださった同僚や関係者の皆様に感謝申し上げます。また、一日も早い被災地の復興と、安心して穏やかに暮らせる日々がくることを心よりお祈り申し上げます。